

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200627		
法人名	株式会社 あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム三郷		
所在地	埼玉県三郷市新和4-545-2		
自己評価作成日	令和 6年 1月 22日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6年 2月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・看護師が常勤で勤務している点、また併設のデイサービスにも看護師が勤務している点を活かし、医療依存度の高い利用者様の入居の受け入れや、受診時往診時の対応、また適宜ご家族に利用者様の体調変化やご様子を報告し、体調変化の際は早急に対応するよう心がけ、日頃から利用者様やご家族が安心して過ごしていただけるよう支援している。</p> <p>・コロナ禍はひと段落したもの、感染予防を身近なところに意識している。そういった状況であるが、利用者様には毎日を笑顔で過ごしていただこうと、職員一同心がけている。あすなろの板前さんほか、調理レクや、冬場には中庭のイルミネーション設置をし、入居者様や来所されたご家族にも好評をいただいた。季節の移ろいとともに、日常に楽しみを見出せるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>あすなろ理念を実践するための事業所目標を随所に掲げる他、今期のスローガン「介護はチームケア」と、利用者と接する基本としての「挨拶の徹底」、「あすなろの身だしなみ基準」を掲示して意識の統一を図っている。職員意見として、中庭へのイルミネーション製作を家族に紹介したところ、たくさんの協力が得られ立派な中庭に変貌した。夕刻にフロアから見るイルミネーションに利用者は大喜びであった。調理レクは利用者の腕自慢の場であり、お好み焼きやたこ焼き他で盛り上がっている。また、毎月恒例の「あすなろの板前さん」は、お寿司やうなぎ丼等で好評である。久しぶりの納涼祭では、手作り神輿と利用者の浴衣姿で家族も喜ばれた。看取りを終えての「看取り振り返りアンケート」等は、利用者本位の住まいへ向けての工夫がある。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすなるホームの理念や今年の目標について目につくところに掲示し、全体会議などで適宜職員に周知している。また入職時のオリエンテーションの中で理念について説明している。	あすなる理念を実践するための事業所目標を設定している。今年度のスローガン「介護はチームケア」は、職員と相談して決めている。「挨拶の徹底」や「あすなるの身だしなみ基準」を、掲示で周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり現在は積極的ではないが、近隣の幼稚園へ入居者様の制作物を贈ったことがあり、将来的な交流の復活を伺っているところである。	コロナ禍以前のような交流は難しいが、町会に参加しゴミ当番もこなし溶け込んでいる。散歩に出ると、近隣美容院とは声掛けもあり会話も弾んでいる。併設デイサービスでのフラダンス等への参加もある。	コロナ禍の影響もあり地域との交流が滞っている。以前のような幼稚園児との交流や、地域における認知症対応拠点としての取り組みなどに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議を通して広報誌などを回してもらっていたが、現在は書面報告のみとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は市の意向で運営推進会議は書面報告のみとなっている。ご意見はいつでもいただけるよう協力をお願いしている。	市側の提案でオンライン開催打診があったが、現況は書面開催である。議事録を委員へ報告する他、玄関での閲覧可能としている。概況報告内の事故については、防止への研修会を実施する予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の相談も含め、市の担当者とは密に連絡をとるように心がけている。書類は郵送で可と言われているが、なるべく持参し伺うようにしている。	行政報告は直接窓口へ行き、情報交換の場ともしている。インフルエンザの予防接種等でも連絡を密として進めた。市からの研修案内も来ており参加としている他、地域医療機関で進める研修への参加もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については安全面から、玄関と各フロア入口のみとしている。介護の方法を職員同士で話し合い、ベッドの四点柵などの抑制はせず、センサーを使用し見守りを密にしている。ご家族にはセンサーを使用しても転倒のリスクがあることは説明している。	2ヶ月毎に虐待防止を含めての委員会を実施している。また、グループホーム・小規模多機能ホーム協議会の勉強会もあり、議事録を回覧している。事例研修では、粉末の薬をご飯に混ぜることや、離床センサーと見守りカメラの扱いについて話し合った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上身体拘束と虐待防止についての研修を実施している。また職員の言葉遣いや接遇に注意し、入浴時などの身体チェックを行い、外傷や内出血など小さな変化も見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のなかには現在成年後見人がついている方もおり、密に連絡をとるようにしている。対応可能、困難なことを都度確認し普段の支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧にわかりやすく説明するとともに、説明の後に不安や疑問点が無いかを確認し、契約締結後も何か気になることがあればいつでも連絡して良いことをお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア入口に目安箱を設置し、ご意見を募れるようにしている。	目安箱の他、面会時での意見交換から要望等を聞いている。更新手続きや、「あすなる通信」を受けての電話相談等でも意見を聞いている。薬を少なくしてほしいとの意見へは、常勤看護師から説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜職員に声をかけるようにし、不安や不満、心配事などが無いかな確認するようにしている。職員の日頃の表情や言動にも注意するようにしている。	職員から個人的に相談を受ける時は、後回しにしないようにしている。フロア会議では多くの意見が出ている。中庭にイルミネーションの設置をとの意見には、家族協力も得てきれいになり好評だった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の職員の努力を社長や部長に伝えるようにしている。2か月に1回、スポットライト表彰という職員個人の表彰を行う取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あすなるグループ法人の研修だけでなく、適宜、外部のオンライン研修の機会を設けている。またOJTや全体会議でも必ず研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や研修、委員会活動において他の施設とオンラインにて情報交換できている。また法人内で応援体制もあり、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との会話の中で要望などを受け取り、適切に対処し信頼していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を受け取り、適切に対処し信頼されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様が優先して必要とする支援を見極めて対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が介護する側、される側に分かれるのではなく、グループホームで生活する仲間であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡を取り合い、利用者様を共に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	令和5年5月よりコロナ禍による面会制限を緩和。入居者様によっては家族だけではなく、ご友人の訪問や手紙が届き、可能な限り会う機会を設けられるよう支援している。	10年来の友人が花を持参で来訪された時「来たの～」と大喜びされた。遠い親戚やお孫さんの来訪もある。家族とお墓参りに出掛けたり、「チャンポンが食べたい」と家族でフードコートへ出掛けたりもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションに参加されない利用者様には声掛けを行い孤立しないよう努めている。ひとりの時間が好きな方もいるため、ストレスにならない程度の関わりを保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後必要になった時、相談や支援ができるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のこれまでの環境、築き上げてきたものを尊重するとともに、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。	実態調査で家族からの聞き取りで得た生活歴や性格を共有し、日々の会話の中から意向や希望を知るように努めている。きざみ食の利用者でも天婦羅だと口が大きく開く等の気付きは職員間周知としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境の情報を共有し、またご本人のお話をよく聞き、利用者様それぞれの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの現状の思いや満足度、期待度を知り、何かできる事を探すよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ご本人、ご家族に今後の生活についてお話を聞いたり、職員間で話し合いをして介護計画を常に見直している。	見直しは6カ月毎を基本としている。計画作成担当者がフロア勤務をしており、居室担当者を含めてのモニタリングを担当者会議で集約している。家族や医師、看護師等からの意見も含め見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は毎日詳細に記入し、問題があるときはそのままにせず話し合い、介護計画を見直すよう実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご家族様が望んでいることを考え、一人ひとりに寄り添ったサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の行事や音楽療法、誕生日会などを行い、暮らしを支援している。現在はボランティアなどの受け入れは行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医に受診を続けるか往診に切り替えるかは、ご本人やご家族と相談し決めてもらっている。通院もか所だけではなく、入居前の医療を継続できるよう柔軟に対応している。	訪問診療医は月二回来訪するが、入居早々期は以前のかかりつけ医で様子を見るようにしている。夜間は、常勤看護師とのオンコール体制もある。外診は家族対応だが職員が就くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調不良者やいつもと様子が違うと感じた時は、速やかに看護師に報告、相談し早期発見に努め、適切な受診、往診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、利用者様、ご家族様の不安に寄り添うとともに、施設でのご様子や経過等サマリー他、口頭でも伝えるよう支援している。また可能な範囲で退院カンファに参加し早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調の変化やご家族様の気持ちを汲み取りながら、タイミングをみてご家族様と相談するようにしている。主治医とともに施設での見取りの指針など十分に説明し、ご家族様が納得できるよう取り組んでいる。	入居時に重度化指針の説明をしているが、生活上の変化があれば医師を交えて家族と相談している。一時的な点滴治療等は看護師が対応している。看取りの経験もあり、後には、「看取り振り返りアンケート」を職員から提出してもらい、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時のマニュアルは作成している。急変時など不安なときはいつでも看護師に連絡して良いことを職員に話している。AEDや心肺蘇生について訓練する計画をたてているが実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響もあり消防や近隣の方の立会いはないが、消防訓練を年2回実施し、日中と夜間の想定、洪水が発生した場合に備えての避難訓練も行っている。	併設デイサービスと共同で年二回の訓練を実施している。また、市からの要請もあって、洪水想定訓練も行い、垂直避難を体得した。利用者居室には、入居時に避難食料3日分を備え、備蓄品対応もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に不快な思いをさせない言葉遣いをし、利用者様からの質問なども後回しにせずすぐ応え対応するようにしている。	個人ファイル等は事務室内のキャビネットで施錠管理されている。本社の研修委員とも連携し、オリエンテーションやOJTを通して接遇等の研修がある。フロアでは、「挨拶の徹底」が掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は押し付けたりせずアドバイスをし、利用者様が自身で考えて決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション等声かけした際に気分が乗らない、参加しないとされた時は無理強いせず利用者様が今やりたいことを優先してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際に着替える服を選んでいただいたり、自力で着替えられない利用者様も同じ服にならないように着替えをさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりあった形態で提供している。後片付けも役割分担し、積極的にお手伝いしていただいている。月に一度のケータリングも楽しみにされているが、調理レクも取り入れている。	食後の片付けは利用者も参加し、調理レクでは、たこ焼きやお好み焼、お菓子作りを喜ばれている。本社ケータリング事業部から毎月の来訪がある「あすなろの板前さん」は、お寿司や天婦羅等が好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、おやつ、水分量の摂取状況を確認し記録している。食事量が少ない方には栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っていただくよう声かけしている。自力でケアを行えない利用者様には、職員が丁寧にお手伝いさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前や食後、不快のないようにトイレ誘導し、一人ひとりの排泄時間帯を見極めてなるべくトイレでの排泄を促し、不快にならないようにしている。	排泄チェック表をもとに声掛け誘導し、二人介助でもトイレでの排泄を基本としている。夜間で、トイレの場所が分からない利用者へは、こまめな訪室で誘導を試みている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事水分や負担にならない程度の運動、歩行を促している。特に水分は多めに摂っていただくように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や時間帯に応じて声かけをし、利用者様本人が快適な入浴ができるよう工夫をしている。	入浴は週二回を基本とし、午前入浴としている。自立度の高い利用者には先に入ってもらっている。お風呂嫌いな人へは、「ノンアルコールビールを用意し、「お風呂上がりに飲もう」と、誘うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡など、いつでも休めるようにベッド周りの整理や室温をこまめに調整し、加湿なども心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセットは看護師が行っているが、内服時はダブルチェックで日付、時間帯、名前の確認をし間違いのないように努めている。内服薬の情報は利用者の情報シートに記入、共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味嗜好、個々に合ったレクリエーションや体操、気分転換に中庭に出たりして楽しみながら支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、移動スーパーやキッチンカーでの買い物を実施している。コロナ禍以降は面会制限を緩和し、ご家族との外出も可能としている。	近くの遊歩道への散歩は利用者も楽しみにしている。玄関先での外気浴や日向ぼっこも喜ばれている。江戸川の土手まで散歩され格別の笑顔もあった。家族との外出は増えてきており、外出先での食事を済ませて帰ることも多くなってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部、小銭を所持している方もおり、移動スーパーの際には現金を渡して支払う動作を働きかけることもある。そのほか必要物品は施設で立替購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望される場合は施設の電話でお話していただくこともある。年賀状や季節の便りなど、ご本人のお手製で書いていただき、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下など皆さんで利用される場所には季節の飾り物などを入居者様と一緒に制作した飾り付けをしている。居室などのエアコンの温度管理は職員が行っている。	リビングからは中庭が見渡せ、四季の花やイルミネーションが穏やかな住まいを作っている。感染防止から一人テーブルに変えており、壁面には共同作品や利用者の笑顔写真が語らいの種になっている。感染対策用の噴霧器が各フロアにある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れたところにある三角コーナーにリクライニングチェアを置き、日光浴をしながら談話ができる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と一緒に写った写真を飾られたり、使い慣れた思い出のあるものを持参していただき、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	介護ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備えてあり、使い慣れた馴染のものを持込んで貰っている。その人らしさと生活感を大切にしている。自身で掃除をする人もあり、自身の空間となってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には分かりやすく張り紙をし、矢印などでも案内を示し、居室にも名札を作り掲示している。利用者様同士が安心して暮らせるように努めている。		